

# アクション ZERO 長崎ゼロ災運動

## ～労働局長メッセージ～

究極の目標「労働災害ゼロ」を目指して！

長崎県内では、昨年一年間に1,459名の労働者が休業4日以上労働災害に被災しており、一昨年比で76名も増えております。また、不幸にして労働の現場で命を落とされる方も後を絶たない状況にあります。

労働災害は、いったん発生すれば、被災した労働者本人にとってはもちろんですが、災害が起きた企業にとっても大きなマイナスとなります。その企業のイメージダウンになるほか、コストの面でも、災害後の生産減少等に伴うコスト、機械等の修理費など、相当なコストを要する場合があります。そして、何よりも貴重な人材が企業活動に従事できない損失は非常に大きいのではないのでしょうか。

昨年の12月から2月にかけて実施した「アクションZERO 長崎ゼロ災運動」第2弾には、334事業場が参加し285事業場が目標を達成し、どちらも前回は上回りました。この成果を踏まえ、長崎労働局では、誰もが安心して健康に働くことができる社会を実現するため、労働災害ゼロを目標とした「アクションZERO 長崎ゼロ災運動」第3弾を展開することといたしました。

本年度は、安全週間の準備期間である6月から7月の安全週間を挟んで、熱中症等の発生しやすい8月までの期間で実施します。

長崎県内の事業主の皆様には、本運動にぜひ参加していただき、労働災害防止の大切さを再認識されるとともに、それぞれの事業場において労使が一体となった自主的な安全衛生活動が更に充実されることを期待しております。

平成29年4月 長崎労働局長 小玉 剛